

傳
九編
六

~21
875
86



PP へ 21
 875
 巻 86

神書佛書精言國學
 繪本手抄新古賣買
 手遊いとく清言の間

河内屋孫天清

後明三休搢紳

河内屋孫天清

新編水滸画傳卷之八拾六

東武 高井蘭山翁 譯編

明治三二年
 十月十日
 購求

○ 盧俊義兵と歎列道二分

時、（紅印） 盧俊義兵と歎列道二分。軍馬と睦別小回。自、奔向
 使却出ありと告らんば、宋江と見んと引乗り。お関門と出く、勅使
 と、運城中、お入らんば、勅使、城内の御文お読。勅書と
 り、子、侍、揚々、云、後、宋江、宋江、と、兵、勇、備と、征伐、屢
 大、お、戦、ひ、功、ある、故、賞、を、封、の、市、酒、三、十、五、瓶、添、夜、三、十
 六、瓶、と、給、く、り、の、御、文、の、編、お、よ、り、功、お、依、各、所、足、の、揚、あり、と
 賜、り、ん、ば、宋、江、諱、が、河、内、屋、と、頼、。三、十、五、の、衣、籠、添、酒、と、お、

新編水滸画傳卷之八拾六

是へて驚くは涙と為りしは勅使悔くを故と問ひしは
宋江答く云今朝廷より二十名の純酒と賜ふ付く。悲傷の
とこれあり歎くを故と問ひしは後方彌と征せんお故と知
時まごの我も義兄弟お抱ひ唯も自ら縁務り故にふゆりのこ
ろ処場子にと海にさう。過く戰場ふ屍と晒し。首と故の軍門
ふ鼻でさう。老敵りふ多く純中張帆をど戦死しをも希を
の功と歎くあが。汚穢とぬすることも叶代朝廷より之を奉
の巨細と知しおれど今かくを數の賜とえく。我事豈悲傷お
堪んやとく。妻細お死りれば勅使も又悲愁恨なりして云かくのど
此義士と扱びしと誠お命と云し我事お返くば必と天子よ
委實し各追号と給く神おあまじと云れば宋江も厚く

と謝し時大少宴席と役け勅使及び劉光世と答意する。宋
江及び官おの各對席お座して御湯の酒と戴き息と謝し。
扱びしら官おの各位辭と役け。御酒及びの湯衣と供へると焼
く茶と役け。その因一瓶の御酒一杯の綿衣と留め。宋江自ら是と
持く張帆の願書お取り。湯衣と紅く張帆の泥神も穿りて免。
御酒と灌く重みおとせり。去むる勅使の留ると數日あり。
勅使お返りし。官おの光陰夫のどく。己お十餘日過りれば張帆
討の方より。使者お劉光世。書翰とぬく。宋江も軍兵とをんて
と役使に宋江律と是と水。異用と共お屬彼義と傳く。高
儀しるん。は知し。睦別へゆえ大にお説く。事お補人の巢元
よ知る。又叙別へ叙く。星山於笑と云く。故くおゆ。今け下

宋公明
の使者
の
御賜
と見
て
流
涕
す



新編水滸傳卷之六

新編水滸傳卷之六

石勇 時迁 丁得孫 孫新 顧天嫂 張青 孫二娘
 猛將於二十九人を勢に合二万餘とす。一處先鋒の許を
 の軍馬を引率し吉日と擇ぐ劉智休解別し又京江と方
 是抗別と登んが奈是は先星炭突と奪ぬく歙州を攻めんと
 各勢の過ぐともどりり板床江のまくの軍馬守に整然軍路の
 手配も定りしれは己小出軍の用意となしおろけし時抗州の城表
 城亦極夜大流行し十ふ八九の病を深づるなりり。軍
 江の中にも張横楊公孔明朱貴楊林白瑞の六将病し
 却く危ありり共小軍に従ふと能り。京江の橋を棄
 富の二人と嘆ぐ抗州お止り六将の病と看病見んとと殺よと付
 自二十七八人の正おと捨くを勢三万餘水江は流の富湯

縣と屋ぐ突豆をり。まわふは津進と悪者と敵僕の兒よ出させ
 名と名ど海塩縣の海辺よどり。役船よ棄れ越州とて徳堅
 縣と經し睦州の界ふありり。け知より己小官獵のね採し地
 かれはあふ小軍和と殺けて擡く小姓果の人と海さぐ時けを
 惡者とす小軍和ととんとり知小軍手吐くぬめりしは案を
 告ぐ云ふ京江の中京の一勇士なり。能天文地理の字ふぬ。陰陽
 肉雲の愛と辨し又能三光の字ふぬ。又九流と教知
 らざる知や。は日一夜一苗の字ふぬ。京江の地ふありて
 天子の采あり故ふ上よふあり。公が穿たのぬふ賢治と困塞
 一や。京江の京江の字ふぬ。俗なるとは。姓名と同姓ふ
 しんら。京江の中京の一勇士姓の柯名し。と中京の京江の字ふぬ

二人上かふ其まうり。別小地まわり。そ天子の命ありとて、
 侍守。常をよむ使と睦州おき。右丞相。士遠。参政。
 法。會書。拒逸。之。神。傳。る。の。に。人。小。抄。と。報。り。い。日。人。の。を。使。
 使。と。ゆ。く。柴。を。と。遠。く。睦。州。の。城。を。小。信。者。れ。我。と。述。小。り。之。
 東。柴。を。い。眉。法。く。目。受。り。一。表。凡。が。ま。る。の。人。物。あ。り。之。所。
 又。俗。か。り。い。ん。ば。右。丞。相。士。遠。の。常。毫。も。疑。ふ。心。か。く。大。お。板。の。
 會。書。拒。逸。と。て。是。事。を。と。法。法。の。大。内。小。朝。親。と。い。め。ん。と。
 歎。り。り。東。条。前。權。の。所。又。睦。州。歙。州。の。西。お。お。た。と。の。い。も。今。
 睦。州。法。法。縣。封。源。洞。の。所。又。と。ゆ。く。本。城。と。る。生。め。用。小。六。初。
 の。法。制。あり。侍。常。を。慈。ま。へ。拒。逸。小。信。者。れ。法。法。の。市。お。お。
 り。左。丞。相。費。敏。中。小。い。ん。あ。り。此。事。を。も。後。推。辨。自。り。會。中。

の。字。と。叙。け。ま。る。妻。敏。中。大。小。其。び。常。を。と。田。め。親。小。官。待。け。り。
 系。未。だ。妻。敏。中。の。法。法。縣。の。教。学。と。生。り。ん。ど。の。字。と。ゆ。く。傳。り。
 ら。ん。が。今。い。常。を。の。書。と。知。り。此。小。海。又。天。文。地。理。と。伝。り。
 辨。舌。水。の。流。る。と。い。と。い。大。小。傳。書。教。へ。夜。お。人。と。私。衛。
 小。宿。せ。め。内。倉。と。目。く。親。小。倉。負。し。皇。日。又。文。三。照。自。小。朝。後。
 して。法。法。の。月。書。小。朝。勤。の。方。權。王。の。左。右。小。文。武。の。百。友。と。傳。り。
 後。の。嬪。妃。孫。女。ま。く。の。女。人。と。ゆ。く。法。下。の。武。士。各。軍。黨。と。傳。り。
 へ。り。侍。殿。取。官。大。小。傳。く。と。名。事。あ。ら。ば。彼。と。ゆ。く。妻。子。と。い。ひ。
 半。か。り。い。ん。と。推。し。退。き。丞。相。費。敏。中。小。信。者。れ。を。と。出。く。奏。し。
 く。云。法。法。中。系。い。れ。ま。子。の。郷。が。り。今。を。傳。小。一。人。の。學。士。あり。姓。
 小。柯。名。い。り。と。中。い。ひ。と。け。人。文。武。各。傳。り。智。勇。か。り。び。足。り。又。

うらばしく。系運俊君も侍見んと止に南の地のよりある中東
 の社稷とゆまん。必死なる。新しめ天象よ況も凡多とゆて
 思ひ測らべうらざる。おやうりと。演られば方備王浪なく赤ひ紫をふ
 中書侍郎の官と賜ひ。方の敷と役けをせしめ。所妻とゆ人
 く。官待あり。是より。後紫をい日ふ石出さる。りも。兵部と
 しく方備も、使られば。未だ半月ふもさる。うら方備と如と
 同所の友人、紫をよ小親ぐ、赤びざうへ。かうりらり。方備の親
 紫をい人物、赤をよ。又半と做く公平。うらとん。愛菜の
 ん。小信。げ。大。逆。相。豊。敏。中。と。妹。姉。と。は。し。も。お。女。今。是。公。主。と
 云うと。は。赤。を。小。楊。と。養。と。な。は。に。れ。め。主。爵。於。尉。の。官。お。ぞ。封。り。り。
 叔。整。の。名。と。張。し。く。雲。壁。と。改。り。ら。人。皆。雲。奉。尉。と。作。り。り。

は赤をい今をよ。公。主。の。女。婿。と。な。り。て。り。日。く。又。敏。子。出。入。り。て。後
 弟。弟。應。と。も。自。由。小。立。入。り。方。備。王。の。令。枝。ま。赤。な。し。が。決。め
 敬。服。す。り。と。拜。お。ま。し。每。小。王。と。軍。率。と。強。し。同。死。す。り。も
 知。り。ら。ん。は。中。の。紫。肉。屋。く。知。さ。る。知。し。或。日。赤。を。奏。し。く
 云。余。赤。も。演。ら。ぶ。下。ま。ふ。天。子。の。赤。象。あり。と。と。赤。星
 小。侵。さ。れ。り。ひ。く。今。半。年。の。あ。り。心。と。赤。が。り。り。ま。ま。あ。り。よ
 赤。に。と。さ。し。も。ち。の。お。と。一。人。も。止。げ。新。し。ま。さ。び。星。星。の。が
 う。退。ふ。し。全。時。し。を。替。ふ。お。た。度。の。り。様。中。東。の。地。と。お
 しく。基。業。と。興。立。り。の。の。小。方。備。王。が。臣。が。仲。ら。愛。お。赤。勢
 の。赤。多。し。と。り。ど。の。近。来。は。赤。星。が。兵。よ。お。お。赤。臣。と。赤。く
 手。足。と。欲。さ。る。ぶ。く。お。人。を。と。赤。に。せ。ん。や。は。赤。を。又。奏。し。て。赤。赤。

叱教天文とてくく君の系數と考ふお星究くまぐくく之の惟
 十位の星の乘ハ君と守護するあり。是まふ小基業と記江の早歳
 なり。そは解ハ皆山東おあふべ又列小二十八宿の君と補佐するあり。
 後潜おあふ小軍中おも又十餘人ハ身く君お解る者
 あふ人其們ハ皆天のほ定り人てくく。人力のおあふあふべこ
 とくく天と輔く。基業と起江はらふらんとを煙とてくく
 從れば方備王大お祝んぐ。そ白の酒宴と役けは業進と常侍
 くの玄かぐ小案江ハ大隊の軍多と引致く杭州と離く富陽
 縣を常んぐを奈江ハ侍室光小州都之是并お石室王勅鼎中。
 温克深ハ又人を放疎の軍年と集あく。富陽縣の實あて守り。
 役と睦別おをく。右丞相繼士遠お救の云とおし。祖士遠

即日お正指揮白狄副指揮景德二人と大おと。そ勢於合二万
 餘騎とお派く。富陽縣へきり。け白狄氣徳ハ初く万を不遇
 の勇士かれハ守室光小州の雲とけく。大お赤軍
 勢と一処お合せ陣と富陽縣の山臥おぬ。敵の集ると待りけ。案
 江ハ大軍と引率して。七里灘とあふ。処とこ。小室光小州山
 上より是とてく。惟うあふ。定江と付ねんやと叫り。んハ石室
 車らお流星艇と常侍風刀と提山と下く。案江と付んと。大
 刀室務是とて。案江と付り。とる。躍せ。遠へんとせ。処お呂
 方大お叫つ。云。鷄と割小ハ。牛刀と用んや。見長物く待り人
 と云。お。一技戦と提げ馬と縦り。石室お向ハ。石室
 も又侍風刀と提して。お人お戦ふ。と又十餘合。案務役と。おと。んハ

郭盛傳より是とせん。又も小戟と持馬を傳せ呂方と相く。郭盛も二人と戦て精神益盛なり。時宋江が水軍の審明風小乗と。追て七雲灘小忌船。しりく。宋史玉州の敵軍の多く。蒼らとて。石室おる。あゝんこと。名れ。小堀と。呼し。軍と。收んと。時石室の山上の嶺の審と。軍と。引えんと。歎ひ。れ。呂方郭盛。右より。夾ぐ。攻り。れ。又戦入と。文六合。お及び。小宋の軍中より。朱全馬と。躍せ。陰と。挺へ。石室の持後より。突り。けられ。石室の三人の敵と。交り。叶と。や。あ。り。ん。富陽山と。言て。敵を。時。宋江。敵と。ひ。三軍と。知し。あ。ら。ふ。富陽山へと。推あ。り。る。宋史玉州。石室。お。の。一。戦。お。お。負。相。廣。縣。まで。退。さ。け。ま。は。宋江の。程。も。追。く。白。蟬。山。と。あ。り。り。

○宋江大よ鳥籠山歎は戦小

は。時。已。ふ。其。氏。お。及。び。一。六。將。々。を。地。小。軍。を。と。休。め。相。廣。縣。と。攻。る。用。意。と。な。り。ふ。り。る。是。解。珍。解。宝。燕。吹。五。樓。亮。一。丈。高。の。又。人。小。命。と。朱。海。へ。向。へ。め。李。達。項。元。李。雲。長。瑞。馬。麟。の。五。人。戦。し。西。海。へ。向。へ。め。又。李。俊。二。改。二。童。孟。康。の。七。人。水。海。を。ま。し。め。右。相。廣。縣。と。討。め。り。る。去。程。小。三。海。の。軍。を。相。廣。縣。の。東。門。小。堀。り。れ。ば。己。小。三。海。の。友。助。く。時。宋。史。玉。州。ハ。石。室。と。共。小。帳。中。小。在。く。軍。を。と。ま。御。し。て。拵。ら。る。が。忽。ち。危。難。を。受。く。大。小。驚。る。と。い。ど。あ。へ。て。紙。敷。へ。と。る。ふ。も。あ。ら。ま。な。く。甲。盛。と。お。拵。く。右。一。命。と。道。ま。り。温。さ。ん。後。の。人。小。後。ま。り。唯。一。人。小。後。と。言。ん。が。道。は。ま。ら。王。英。一。丈。高。丈。妻。と。争。も。え。の。け。拵。小。抱。倒。小。擡。く。生。提。



王英一丈青共
温克讓と楠



たり李達ハ項亮李衣樊瑞馬麟ホととめ小松も大と放り人と
 殺してそ敵とあつた宋江を報とつて法軍勢と修越相慶縣
 小知休は時王綏亮一丈二人の温克讓と郷々宋江の軍あ
 小引知りて宋江二人の功と賞し且温克讓と抗明小波とめて
 張招討の軍あてて斬首と斬しめたり去程小宋江の五日水
 陸の軍を細くしら小烏龍炭と報て睦明小おんときよ炭
 下小おりの時室光玉伴の船と修小烏龍炭の関隘と固え
 たり作け烏龍炭と中の睦明第一要害の地とてた右の長江小
 龍山後しく水急うしてよふの関隘と建づる件多の軍船と
 行へ容易攻べしともいへりさうりり宋江の軍と炭ゆふ也一陳
 と二ヶ所小張だも李達項亮李衣小百人の牌はとてよとて烏

竜関のり小あり小冥とてり播本化石面のどとてりしねが
 軍をむと修計の施はるもさうりり宋江の又改少二孟康
 壹威壹猛の中人小命じ別小烏龍の水寨と攻うむけ烏龍の水
 寨とやれ昔奉方備が造りし怨とて小大江と臨し後り山よ
 傍り肉よ五百の戦船と子の水兵あり水軍の統領中人ありと
 浙江の口竜と号れま中人の名は王頭竜が總管成美 錦鱗竜
 副統領翟源 鮑波竜左副管喬正 獻珠竜右副管謝福と
 中なりは中人の系浅塘江の精公なりしが皆水練の達者なりと
 方備小あしと三品の鐵甲と授り水寨の守りとなれりとき時
 改小二等中人の一の水軍と二百艘の船よちち系統と揺し討つと
 撰と山致と喝へて烏龍炭下の急流より出小橋より小橋上るも

一、山の下に大江を橋し。船なりて後、いかにいかに
 一、山の上より入りり。宋江も又水軍の利を失へと見、相慶縣
 ままで退て軍兵を休めり。その日、宋江は改小二、孟原と失ひ
 しと。自ら悲泣ふ。唯、誓くし。夜合せし。棄し。
 夏、霖雨。されば、異用。危物と。修小慰めり。せし。程、滸、然とて
 在り。れば、改小、又改小、十六、兄の、為小、掛、考て、在り。る。が、自、來て、宋
 江と、孫と云、我、兄、昔、日、之、碣、村、小、在り。る。弟、宋、と、同、く、朽、あ、び
 唯、之、人、名、目、と、知、り、老、ぶ。と、云、ん。ふ。今、玉、家、の、大、事、の、為、小
 付、死、し、之、が、救、ふ、中、軍、と、中、の、之、宋、之、海、渠、が、為、小、必、す、多
 く、煩、惱、し、之、人、と、あ、り、れ、軍、卒、と、告、げ、し、之、人、に、一、報、し、之、人
 弟、日、變、と、報、入、り、と、云、た、れ、ば、宋、江、も、方、終、む、と、慰、め、け、り

一、後、小、翌、日、早、る、と、誓、へ、く。多、小、鳥、龜、炭、と、攻、ん、と、異、用、練
 て、云、見、長、焦、燥、し、人、と、わ、り、ん、我、再、之、計、策、と、玉、史、の、上、通、日、又
 山、谷、と、越、く、睦、州、と、取、ん、と、も、未、だ、進、く、べ、と、云、ふ。未、だ、進、し
 り、方、処、に、解、珍、解、珍、を、を、知、く、云、ふ。未、だ、兄、弟、の、と、備、戸、の、出
 方、り、く、い、い、山、と、登、り、炭、と、後、り、ひ、と、い、を、押、懸、り、と、い、今、方、友
 人、備、人、の、取、小、出、立、く、渡、小、山、谷、上、小、懸、入、款、陳、小、火、と、放、小、
 彼、く、必、逃、救、ん、と、時、云、と、を、あ、り、り、一、鼓、小、睦、州、と、定、む、べ、
 異、用、が、云、け、計、め、と、い、と、い、げ、山、谷、より、險、阻、し、て、奉、信、の、所
 ち、飛、鳥、小、あ、り、づ、れ、づ、つ、じ、が、に、美、保、く、柳、の、踏、而、と、失、り、づ、
 夫、の、源、谷、小、流、く、命、を、失、く、べ、
 解、珍、兄、弟、若、く、云、未、だ、見
 牙、登、剛、り、く、嶽、と、越、海、小、山、泊、小、上、り、り、深、く、宋、之、海、の

新編水滸畫傳卷之八拾六
 十三

驚熱とあり又玉家の諸令とほく海衣と忌し。榮幸一
 務べ。今玉家の為小背と扱めと粉うして。案生後心
 高思と扱ずとも。後馬うさる起うそゆればやと述られ。案江も
 そ志業と蔵じて云。受身故小向小必ず名者の死と云と
 と止めよ。只然くば果く玉家の為小力と出。大功と立すと
 あり。解はは身大子。後び果く。桂束とわしふり。はんや
 身は虎皮の襖子と忌。腰小短刀と帯。身小細作の又と提げ
 案江小解し。そ夜細文の比小海より。身んく。烏毫靴小向
 ひろら。七八里もさる。小依。海の小車。小遊。られ。解。後
 く。短刀と扱く。小人と刺。槍。己小。後。下。小。ま。ま。二。更。の。比。と。覚
 して。案。因。の。更。鼓。風。小。吹。く。台。明。く。人。の。大。海。と。比。比。解。

後より夜を櫛。葛と扱つ。一。音。く。より。より。は。夜。月。の。光。ひ
 る。の。で。一。人。の。素。燈。と。傳。く。險。阻。の。処。より。身。り。遠。小。山。上
 と。登。じ。小。燈。光。閃。く。と。して。用。小。早。走。小。足。え。小。り。人。小。款
 小。知。く。ま。ま。と。少。飲。の。四。つ。あ。る。処。小。身。と。倒。て。更。鼓。を。受。よ。己。小
 口。更。と。お。れ。れ。が。解。後。密。小。解。室。と。呼。ぶ。云。夜。も。短。く。れ。が。案。子
 天明も。る。あ。ま。い。我。く。身。小。登。く。半。と。計。う。ず。ん。が。遠。小。大。功。と
 多。く。と。と。人。後。晴。と。ひ。く。後。又。と。背。小。縛。り。一。向。小。登。じ
 又。款。陳。小。辺。付。し。小。経。又。巾。衣。小。割。り。く。款。く。と。大。小。雷。さ
 しく。山。上。の。高。き。と。り。す。の。織。衣。あり。と。ゆ。り。て。一。夜。小。敷。多
 の。提。拘。と。提。上。し。の。提。拘。解。後。が。款。若。小。搦。り。られ。解。後。意
 小。力。と。扱。んと。せ。し。小。又。提。拘。と。り。御。と。け。られ。が。解。後。人。慌

新編水滸畫傳卷之八拾六

十四

て只一刀小横鉤を破りし小憐づ。一世の英雄百千丈の海客
 小臨微塵小たうく死より。解室の是とて人々多ふを
 下しんとせし死小も。炭上より。大小の石塊とあしし又弓
 奴らとぬのどく放ちられぬ。遂に死す小射殺さる。山々を
 入て死屍とる。上りの。牛半縛付炭上より。りり。
 宋軍の探子とて。細小宋江の告げ。宋江又解次
 身と美人とを。あち暈昏し。地小割して大小果に。く
 あり。あち。宋江二人と。あち。宋江二人と。あち。宋江二人と。
 破りく。二人の仇と報へ。と大小怒りけり。果用が云に。是必む性
 うと。果と。あち。死するもの。天を。人力の。及ぶ
 あ。鳥。と。あ。必む。神。の。と。智。と。

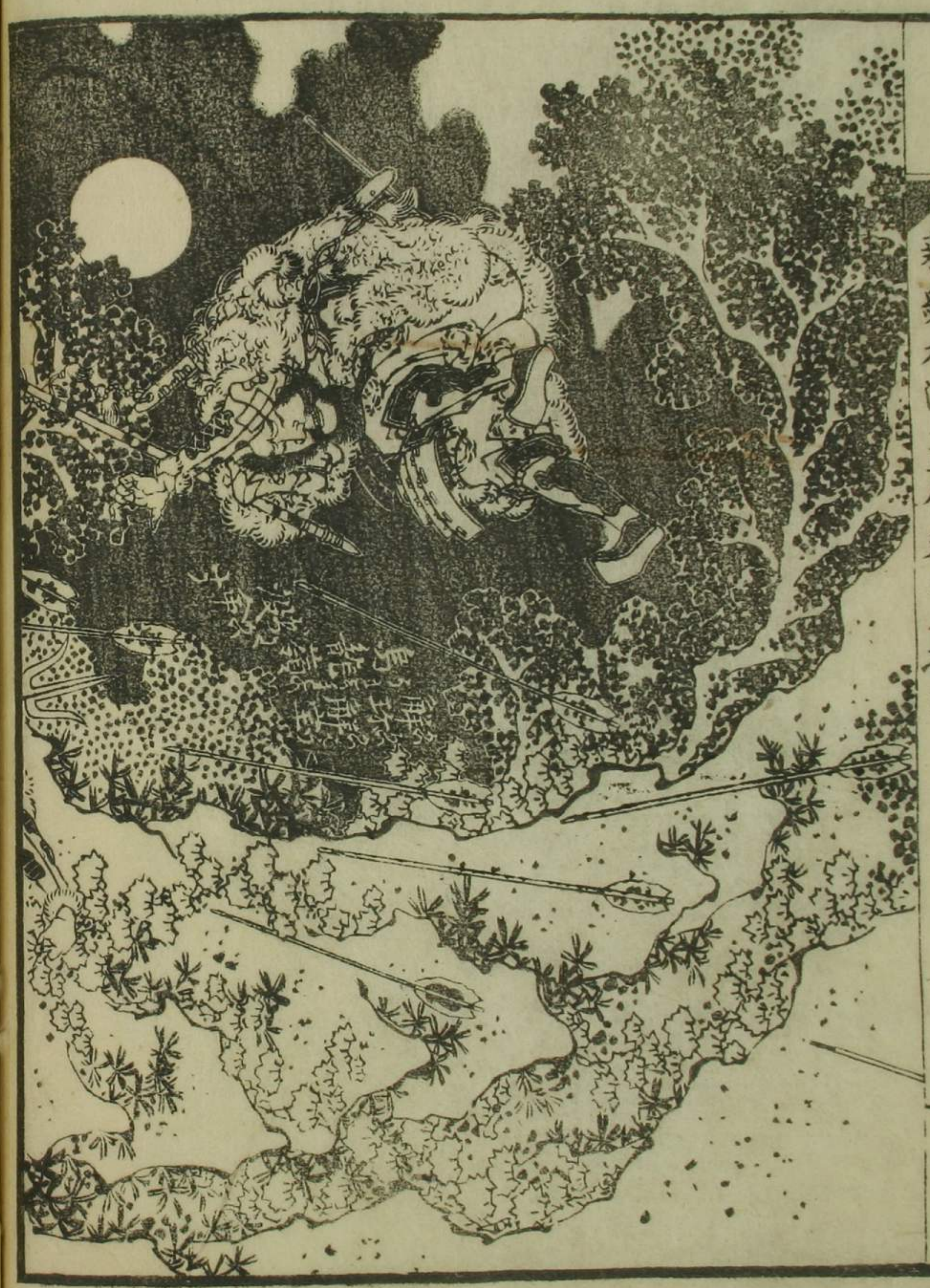
必しも力戦して。死方と換。う。今とある。と。練。宋江
 程も。急。と。云。練。の。ワ。小。我。を。と。や。ん。堂。居。あ。安
 然と。て。是。と。ん。小。思。ひ。ん。や。没。や。練。後。我。身。の。屍。首。と。ん。半。改
 又。風。化。と。吹。く。我。今。骨。骨。と。提。く。彼。屍。首。と。奪。也。一。厚。く。埋
 幕。と。美。の。無。と。練。め。と。鳥。死。炭。と。攻。破。く。と。報。り。んと。怒
 り。果。用。う。と。と。練。と。云。練。を。死。せ。と。風。化。す。と。内。必。計
 あ。ん。仁。兄。必。む。造。次。の。い。う。と。あ。ん。宋。江。那。里。う。と。練。と。申。人。や。
 別。ち。三。子。の。精。を。と。個。一。室。務。花。菜。呂。方。郭。盛。と。引。年。して。鳥。死。炭
 へ。を。葬。入。は。夜。二。更。の。比。供。持。未。炭。も。小。死。う。若。喊。と。伝。り。り。宋。江。の。馬。と
 縦。く。遠。小。炭。上。を。帝。と。る。小。解。次。身。の。屍。首。と。牛。半。小。縛。り。付。雨
 株。の。樹。よ。り。け。大。樹。の。皮。を。削。く。あ。の。文字。と。比。各。月。黒。七

てんがぐられば。宋江火炮と放る。めぞをうそ何ひつるふ。早
 晩宋江と刹つ。け処ふ號令と書る。宋江と怒りて。士率
 ふ命。樹上よ。死をせし。んとん。時令。鼓吹。軍馬。さ
 炭上。小數子の火把。齊く。點。花着。ぬの。ど。か。れ。宋江。大
 驚。水邊。小退人とせ。南軍の水兵。舟。起り。石室。ふ
 礮。風。カ。と。捲。げ。宋江。と。お。留。んと。去。え。小。船。出。り。け。時。宋。江。は。る
 と。山。邊。お。見。え。んと。せ。小。忽。滅。の。聲。大。お。起。り。鄒。え。覺。ま。つ。つ。え
 よ。を。ま。り。お。呼。つ。宋。城。は。る。り。り。傳。と。受。け。交。わ。り
 れ。の。時。と。待。や。と。罵。る。れ。宋。江。大。お。怒。り。と。飛。カ。と。捲。一。鄒。え
 急。と。戰。つ。ま。ご。二。三。合。お。及。ぶ。る。ふ。後。又。滅。の。聲。大。お。起。り。南。軍。に
 人。の。兵。一。く。解。お。上。り。り。さ。り。來。ま。ば。炭。上。より。王。勳

鼎中。去。え。不。攻。り。け。時。花。業。と。移。く。王。勳。鼎。中。と。替。へ。ば
 る。残。ひ。い。ろ。傍。り。負。て。る。と。見。り。り。王。勳。鼎。中。を。小。舟。と。逃。免
 一。お。花。業。は。も。使。く。連。珠。和。と。放。り。小。舟。を。渡。る。二。舟。の。物。と。射
 受。れ。る。ふ。一。舟。は。死。お。し。る。南。軍。の。旗。を。是。と。見。く。進。ぶ。者
 は。一。り。り。人。水。軍。の。強。官。へ。目。お。す。王。勳。鼎。中。と。射。殺。る。燈
 火。を。退。け。り。時。小。船。江。又。山。邊。お。見。え。んと。せ。小。丸。の。方。か
 滅。の。聲。大。お。起。り。白。欽。景。德。と。小。攻。ま。る。宋。軍。の。内。より。は。に
 方。郭。盛。を。一。く。と。灌。せ。と。お。幾。人。軍。江。は。方。お。放。火
 進。く。心。中。い。と。せ。んと。慌。て。る。ふ。又。南。軍。の。背。後。お。滅。の。聲。大。お。起。り
 り。れ。ば。又。も。故。の。益。さ。り。や。と。る。と。お。い。ふ。南。軍。丈。お。死。々。れ。ん
 何。れ。や。と。る。知。る。愚。徒。風。車。遠。虎。の。ぞ。く。吼。く。軍。方。と。吹。倒。り



鳥越山
金藏殿
子



新編水滸畫傳卷之八拾六

背後より項元。李玄一子の前軍とて、破れ来る。南軍の陣
 あり。石室、碎刀と提げ、李達と逢へんとせし。知方、虎の
 歩あり。矢、深杖とひくち、おろかりければ、存武、以老あり、戒
 刀とひく破けり。石室、人の勢、お故し、ぐるや、ひけん。
 後、お退んとせし。知方、秦明、李益、朱全、燕、馬、麟、樊、階、一丈、書、王
 矮、言、此、各、勇、を、看、く、救、く、お、南、軍、を、破、立、れ、ば、石、室、鄧、元、を、も
 ち、勢、お、故、し、ぐるや、思、ひ、人、兵、を、救、く、お、引、返、し、り、定、江
 の、人、と、同、じ、く、陳、中、お、同、り、使、お、謝、し、て、恙、足、身、の、救、お、あ
 ず、ん、ば、我、れ、又、解、珍、足、身、と、い、は、し、る、お、下、の、鬼、と、な、る、人、異、用、が
 云、見、長、の、後、あ、ら、じ、自、向、ひ、う、人、と、か、う、れ、と、判、し、る、定、江、も
 又、異、用、が、云、と、感、じ、懇、お、謝、し、り、る、を、後、お、烏、龍、炭、上、り、石、室

鄧元、定、兩、人、軍、事、を、議、し、て、い、く、い、ん、を、定、ま、と、退、り、計、あり
 り、ん、や、と、沈、吟、お、及、ぶ、知、方、石、室、が、ら、く、只、今、宋、江、が、兵、を、相、盡
 縣、お、退、く、と、い、ふ、も、恙、密、お、お、後、う、け、炭、と、越、ら、れ、ば、睦、州、の
 危、を、と、且、夕、お、あり、を、次、今、日、玉、脚、自、清、溪、の、内、裏、お、同、り、天、子
 お、奏、し、く、救、の、兵、を、乞、け、冥、石、と、お、り、と、長、久、の、計、と、せ、ん、り、鄧、元
 笑、り、云、え、脚、の、云、知、極、く、理、あり、と、て、を、ま、馬、お、乘、り、睦、州、お、来
 り、右、丞、相、祖、士、遠、お、見、え、く、云、宋、江、が、軍、中、勇、將、多、く、て、故、す
 べ、く、は、げ、ま、く、槍、並、が、烏、龍、軍、も、持、ち、難、く、也、お、く、救、ひ、の、云、と、是
 流、ま、り、ん、と、と、を、述、べ、り、祖、士、遠、亦、と、同、云、し、鄧、元、之、定、と、同
 じ、く、も、お、乘、り、清、溪、縣、の、幫、源、洞、お、お、く、先、在、丞、相、妻、敏、中、よ
 ま、え、率、の、妻、細、を、決、り、ら、れ、ば、先、天、子、お、奏、せ、ん、と、て、お、翌、日、お、飲、と

侍らる。初に日方獮王南殿不出御あらば二丞相。鄒之覺と曰
 づ。胡又し。各万歳と唱へ。皇は後鄒之覺を乞ふ。奏して
 云は。之を乞ふ。皇方と為りて太子と爲は。抗州を守りし。宋江が
 大軍勇多し。誰も隔られ。今退く。之。所。石室とす。鳥
 龍。炭の園。而とす。ねり。け。は。宋江。が。下の。大。お。口。人。と。切。つ。た。勢。
 ひ。大。お。根。へ。り。只。今。宋。江。を。と。を。め。て。己。お。相。度。縣。お。屯。せ。り。彼。り。
 城。お。守。れ。と。知。く。雲。と。城。あ。べ。又。は。雲。と。も。保。つ。て。成。さ。る。の。こ。お。あ。は。
 睦。明。の。衆。を。と。を。と。め。く。印。と。推。げ。じ。何。と。を。降。下。さ。く。お。守。と。撰。む。
 守。る。と。は。何。く。鳥。竜。雲。と。堅。め。し。あ。お。く。城。地。と。後。す。の。計。と。な。り。
 人。と。若。れ。バ。方。獵。王。若。て。云。は。汝。が。雲。処。を。降。下。と。し。と。は。け。は。と。歙。州。皇。雲。雲。
 へ。多。くの。守。る。と。を。り。法。漢。よ。只。所。林。の。守。る。の。后。の。と。是。に。悪。く。大。

因。と。守。る。軍。勢。お。る。へ。ん。ど。件。お。小。お。い。え。ん。や。鄒。之。覺。又。奏。し。て。云。は。上。
 下。只。今。救。の。兵。と。添。め。ば。大。お。宋。江。を。城。睦。明。の。隔。ふ。ん。と。半。月。
 と。さ。ら。べ。と。右。丞。相。も。婁。敏。中。も。又。を。乞。つ。て。奏。し。て。云。は。鳥。竜。炭。
 は。睦。明。の。統。首。な。れ。バ。今。所。林。の。軍。兵。三。万。騎。の。因。二。万。騎。と。分。つ。て。必。
 所。お。多。派。お。り。し。め。り。と。宋。三。奏。し。れ。せ。方。獵。王。さ。ら。お。用。に。な。れ。各。
 胡。廷。と。退。き。さ。る。所。憐。憫。な。け。れ。人。の。愛。入。じ。遂。に。地。を。遠。て。次。
 し。む。と。是。な。り。さ。れ。が。婁。敏。中。の。胡。より。退。り。て。後。鹿。友。人。と。後。け。け。
 ら。ん。け。然。に。士。遠。お。一。人。の。猛。將。と。婁。敏。中。の。乞。ふ。と。歎。け。り。あ。お。件。と。同。
 しく。鳥。竜。炭。と。救。り。し。む。ら。お。多。り。さ。ら。れ。が。相。士。遠。ハ。名。を。睦。明。
 お。同。り。一。人。の。猛。將。も。婁。敏。中。と。同。く。あ。お。の。乞。ふ。と。推。く。鄒。之。覺。
 と。先。ど。鳥。竜。炭。の。請。申。お。多。く。法。漢。大。因。の。お。も。し。れ。と。石。室。お。

小舟りなれ石室言々云云朝廷より御所の軍を分ちり
 ずんば様々只け実と云々出陣人べくびとて水軍に人の儀當
 りぬ望々江邊と云々しめ實上より都ええと初とて石室白次
 宗徳夏漢成のめ將望々實和と固めりる。さるやど小室江に人の
 親方と失ふと云々。以来只相慶縣小室と止ると二十日忽ち
 探子來々告々云々江度朝廷より奉極密として賜と持しめ
 け地小向りしめ又大將王稟中も賜と持しめ。是出於實の慶之將
 小室人とぞ。只奉極密已ふけ地小室ありと告れば。本江邊と
 用及び然れと云々。相慶縣と離るると廿里ざりしとてお將
 々々奉極密と云々。奉極密ありし。勅書と後々賜と云ひは。本江
 木頂戴す。奉極密と云々。今上天子あつて先海の功と云々と云し

右又多くお士と失ふと云々。今奉及び大將王稟趙禪を
 其小力と合りし。王稟の賜と持し今慶之將の賜小往りと云
 ければ。本江邊と云々。又け地小室と攻るふ及んで多く親
 方と失ふと云々と告て後と云々と流せ。奉極密と對先初ち
 趙禪と云々。本江小見へし。其小相慶縣小室とて。夜江
 宴と致々答々云々。されば。次の日奉極密の宴江と其小島就
 炭と代用と云々と云々。其小相慶縣小室と云々。其小島就
 ひりふと云々。其小相慶縣小室と云々。其小島就
 当地の百姓の能地程と云々。其小相慶縣小室と云々。其小島就
 くと其小相慶縣小室と云々。其小島就
 其小相慶縣小室と云々。其小島就

高村の溪の辺におゝく河と知まらる百姓と爲しむ。さればその日
 の暮におゝく一老人とつれ返り宿にまつてしむ。宿に問て云け老
 人の何人ぞや。馬禰答く云是れ古く高村の邊にてよくけ地は修徳成
 知れなる宿に云老人は我おけ地の中流と教へば宿と越めぬまう汝
 お報思へ。老人告く云是れ之程よくけ地の百姓をよひう宿まぬ宿
 獵おまじし。逃るるを知らぬ。宿愛お沈みし。処お今幸お夫共まよ
 りありふと再び大車をうんとと焼く。山只今もまよ一の小徑を教
 け宿と越めまじし。押け小流より越りて別と宿の地にて水門を
 別腔川の流西側の鳥竜岫の書流をよひと告る。宿に大に悦ぶ
 先宿子と老人よまを宿に宿と陳中お止く。酒食とまて。款待
 たり。果て此宿と越て山何の宿と詳し。新編水滸三傳卷二ノ下
 八拾六年

